

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
JAPANサッカーカレッジ	平成14年1月9日	中村 勉	〒957-0103 新潟県北蒲原郡聖籠町大字網代浜925番地2 (電話) 0254 (32) 5357																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人 国際総合学園	昭和32年10月10日	池田 弘	〒951-8065 新潟県新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話) 025 (210) 8565																				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
文化・教養	文化・教養専門課程	トレーナー専攻科		平成17年文部科学省告示 第30号	—																		
学科の目的	特定非営利活動法人 日本SAQ協会と連携し、指導者としての実践的な知識・トレーニング手法を獲得し、日本SAQ協会レベル1インストラクターの資格を取得し、卒業後に即戦力となるトレーナーを育成する。																						
認定年月日	平成27年2月17日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
3年	昼間	6048時間	1103時間	0時間	4404時間	0時間	541時間																
単位時間																							
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
45人	19人	0人	2人	2人	4人																		
学期制度	■前期:4月10日～7月29日 ■夏期実習期間:7月31日～8月26日 ■後期:8月28日～12月16日 ■冬期実習期間:1月22日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 A(優) B(良) C(可) D(不可) H(保留)																		
長期休み	■学年始:4月1日～4月10日 ■夏季:実習等のスケジュールによる ■冬季:12月17日～1月21日			卒業・進級条件	■要出席時間数の80%以上出席していること ■必要科目単位をすべて取得していること ■学費等に未納が無いこと																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学生コンシェルジュの設置(担任以外の教員による面談等) 保護者宛に活動報告書を送付(保護者との連携) 個別対応(スクールカウンセラーによるカウンセリング)			課外活動	■課外活動の種類 学校周辺地域清掃活動 地域イベントボランティア参加 ■サークル活動: 無																		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) サッカー業界スポーツ業界でのトレーナー・接骨院・サッカークラブ指導者 ■就職指導内容 個別面談を実施し、本人の希望職種を確認した上で、インターンシップを実施。 授業内外において面接指導や履歴書作成指導を実施。 ■卒業生数 : 3 人 ■就職希望者数 : 2 人 ■就職者数 : 2 人 ■就職率 : 66 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数:1人(サッカー研究科に内部進学するとともに、同グループ内国際メディカル専門学校とのダブルスクール)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業者に係る平成30年5月1日時点の情報) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本SAQ協会レベル1インストラクター</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	日本SAQ協会レベル1インストラクター	③	3人	3人								
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
日本SAQ協会レベル1インストラクター	③	3人	3人																				
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成29年4月1日時点において、在学者11名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者10名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセラーによるカウンセリングの実施 学生コンシェルジュの設置(複数の教員による個人面談の実施)			■中退率	9%																		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:有 http://mydreams.jp/scholarship ■専門実践教育訓練給付:無																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) http://www.cupsnet.com/pdf/h28_01.pdf																						
当該学科のホームページURL	http://cupsnet.com/about/course/trainer/																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

日本SAQ協会インストラクターから直接指導を受けることで、JAPANサッカーカレッジトレーナー専攻科在籍学生の内外実習等の様々な現場でおこなうトレーナー活動の幅と質を向上させる。また、卒業後の就職として、全国のサッカー業界(スポーツ業界)に優れたトレーナーを輩出することを目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会で協議された事項および企業からの要請について、JAPANサッカーカレッジ教務部で再度協議し、より実践的かつ専門的な職業教育の実現に努める。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年8月22日現在

名前	所属	任期	種別
国枝 晴隆	新潟県下越地区サッカー協会理事	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	①
井場 正知	特定非営利活動法人日本SAQ協会インストラクター	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
小出 隆一	JAPANサッカーカレッジ顧問	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	
中村 勉	JAPANサッカーカレッジ学校長	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	
原 朋洋	JAPANサッカーカレッジ教務部長	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	
森 俊輔	JAPANサッカーカレッジ事務局長	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	
山中 惟嗣	JAPANサッカーカレッジ学科主任	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回(2月・8月)開催予定

(開催日時)

第1回 2018年2月10日 15:00～16:00

第2回 2018年8月22日 15:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会にて、より良い人材を育成するために実習時間(期間)を増加することはできないかとの意見があり、次年度カリキュラムで変更する予定。企業より要望があったフィードバックの回数増加については今年度より取り入れている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

日本SAQ協会インストラクターから直接指導を受けることで、JAPANサッカーカレッジトレーナー専攻科在籍学生の内外実習等の様々な現場でおこなうトレーナー活動の幅と質を向上させる。また、卒業後の就職として、全国のサッカー業界(スポーツ業界)に優れたトレーナーを輩出することを目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実習においては学校内部における実習にとどまらず、より実践的な現場での指導法を学ぶために外部企業との連携を重視し、より実践的な知識と最新のトレーニング手法を習得し、卒業後に即戦力となるトレーナーを輩出する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
日本SAQ協会レベル1インストラクター	日本SAQ協会レベル1インストラクターの資格取得を目指す。	特定非営利活動法人日本SAQ協会

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(株)アルビレックス新潟の推薦を受け、公益財団法人日本サッカー協会が主催する指導者講習会に参加することを諸規定に定める。毎年10月にトライアルを受験させ、6月(前期)・9月(後期)に受講する。教員自身の指導能力向上を目的とするとともに講習会内容を授業や実習等で活用する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本サッカー協会公認キッズリーダーインストラクター養成講習会」(連携企業等:株式会社アルビレックス新潟)

期間:2018年3月20日(月) 対象:トレーナー専攻科教員1名

内容:子どもたちに関わる指導者に対し、体を動かすことの楽しさを伝える指導者の養成を目的とし、実技1.5時間、講義1.5時間のカリキュラム構成

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「全国専修学校教育研究会主催教育コーチング研修」(連携企業等:全国専修学校教育研究会)

期間:2017年11月14日(火) 対象:トレーナー専攻科教員1名

内容:コーチングを実践できるまでのスキルトレーニングとコーチングのポイントを学習し、深い学びにつながるアクティブラーニングを支える対話力のスキルトレーニングを実施

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本サッカー協会公認B級コーチ養成講習会」(連携企業等:株式会社アルビレックス新潟)

期間:2018年6月11日(月) 対象:トレーナー専攻科教員1名

内容:サッカーの全体像を理解し、基本的な知識・指導力を獲得する講習会

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「一般社団法人実践行動学研究所主催リーダー研修」(連携企業等:一般社団法人実践行動学研究所)

期間:2018年8月30日(木) 対象:トレーナー専攻科教員1名

内容:学習意欲の低い学生・コミュニケーションが苦手な学生・留学生等について各校の辞令発表やで対応方法などを協議し、自校での指導に役立てることを目的とする。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

JAPANサッカーカレッジが作成した「学校自己評価報告書」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告。あわせて、自己評価の参考資料となる、教職員・学生アンケートの結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて学校運営の様々な状況について報告し、各評価委員から、自己点検・評価報告に対する意見を頂き、頂いた意見を今後の学校運営に参考活用する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1. 教育理念・目標
(2) 学校運営	2. 学校運営
(3) 教育活動	3. 教育活動
(4) 学修成果	4. 学修成果
(5) 学生支援	5. 学生支援
(6) 教育環境	6. 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	7. 学生の受入れ募集
(8) 財務	8. 財務
(9) 法令等の遵守	9. 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	10. 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	11. 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会を開催し、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した「学校自己点検報告書」について、当校に関係の深い9名の評価委員に評価していただいている。委員会において出された意見・アイデア・改善点・改善案を校内にてまとめ、次年度のカリキュラム編成・授業内容・授業時間や期間・担当教員の選定などに役立てている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年8月22日現在

名前	所属	任期	種別
国枝 晴隆	新潟県下越地区サッカー協会理事	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	①
奥山 達之	(株)アルビレックス新潟アカデミーダイレクター	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	③
小出 隆一	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	顧問
中村 勉	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	学校長
原 朋洋	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	教務部長
森 俊輔	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	事務局長
板垣 雄平	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	学科主任
竹川 昌彦	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	学科主任
諏訪 雄大	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	学科主任
小池 光徳	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	学科主任
山中 惟嗣	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	学科主任

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: http://www.cupsnet.com/pdf/h28_01.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

JAPANサッカーカレッジが作成した「学校自己評価報告書」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告。あわせて、自己評価の参考資料となる、教職員・学生アンケートの結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて学校運営の様々な状況について情報を提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	1. 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	2. 各学科等の教育
(3) 教職員	3. 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	4. キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	5. 様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	6. 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	7. 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	8. 学校の財務
(9) 学校評価	9. 学校評価
(10) 国際連携の状況	10. 国際連携の状況
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: http://www.cupsnet.com/pdf/h27_01.pdf

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 トレーナー専攻科) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			英会話Ⅰ	テキストの内容に即しながら行う各講義で、それぞれの内容を理解しながら、年間を通じて学生が英語で会話することを旨とする。	1通	32	2	○			○		○			
○			英会話Ⅱ	テキストの内容に即しながら行う各講義で、それぞれの内容を理解しながら、年間を通じて学生が英語で会話することを旨とする。	2通	32	2	○			○		○			
○			英会話Ⅲ	テキストの内容に即しながら行う各講義で、それぞれの内容を理解しながら、年間を通じて学生が英語で会話することを旨とする。	3通	25	2	○			○		○			
○			コミュニケーションスキル	自己紹介や挨拶等を通じ、コミュニケーションの大切さを知るとともに、基礎的なコミュニケーションスキルを習得する。	1通	32	2	○			○			○		
○			就職実務	自己分析を中心に、就職とは何かを考えさせ、就職に対する動機づけを行う。就職活動のマナーを知り、面接対策等を実施し、就職活動への準備を目的とする。	2通	32	2	○			○				○	
○			プレゼンテーション	テーマについて情報収集し、自身の意見を論理的に伝える技術を獲得する。Power Pointを使用しプレゼンテーションする。	3通	25	2	○			○				○	
○			ホームルーム	学科ホームルームの時間を利用し、学生自身が活動内容を報告・発表する。また、他の学生の活動状況を知ること、自分自身の今後の活動に活かす。	1通～3通	89	6	○			○			○		
○			企業研究	様々な業種の中から選定された業種（企業）についてグループで研究し、発表する。卒業後の就職を見据えてできる限りの情報を収集する。	3通	231	14	○			○			○		
○			機能解剖学	身体組織である骨や筋肉、靭帯等の構造および機能を理解し、身体動作への理解につなげていくことを目的とする。	1通	32	2	○			○			○		
○			スポーツ生理学	運動によってからだにどのような変化が生ずるのか、その現象と仕組みを研究する学問である。スポーツトレーナーとして必要な基礎的な知識を身に付ける。	1通	32	2	○			○			○		
○			スポーツ科学	指導者としてスポーツトレーニングの基礎を学び、その知識を実際に指導する際に活かすことを目的とする。	2通	32	2	○			○			○		

（文化・教養専門課程 トレーナー専攻科）平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			栄養学	基礎的なスポーツ栄養の知識を取得し、コンディションや状況に合わせた食事について自ら考え・選択・実践・指導できるようになる。	1通	32	2	○			○		○		
○			測定評価	測定の目的・種類・内容・実践について理解し、実習の際に活用する。またどのようにプログラミングし評価するかを学ぶ。	1通	32	2	○			○		○		
○			スポーツトレーニング論Ⅰ	J A T I - A T I の資格取得を目指す上で、基本的な知識・技能を習得する。	1通	64	4	○			○		○		
○			スポーツトレーニング論Ⅱ	スポーツトレーニング論Ⅰで学んだことから、さらに発展させ応用し、J A T I - A T I の資格を取得する。	2通	64	4	○			○		○		
	○		コーチング総論	コーチングに必要な知識を学ぶとともに、コーチとは何かを考え、コーチングの方法を学び、実習で活用する。	2通	32	2	○			○			○	
○			スポーツマネジメント概論	様々なスポーツイベント・大会運営の実例を参考にしながら、スポーツをより身近に感じてもらうためにどのような取り組みが必要と考えられるかを学ぶ。	3通	25	2	○			○			○	
○			救急法	A E D の使用法や、応急処置の方法を学ぶとともに、日本赤十字社認定赤十字救急法救急員の資格を取得する。	1通	32	2	○			○		○		
○			サッカー実技	サッカーをプレーすることで競技ルールを学ぶとともに、選手の視点から見えてくるチーム運営等を学ぶ。	1通～3通	89	6				○	○			○
		○	指導実践	日本サッカー協会公認C級コーチの資格取得を目指す。	3通	64	4				○	○			○
○			テーピング	サッカー指導者として指導にあたる場において活用できる、テーピングやアイシングの技術と知識を学ぶ。	1通	64	4				○	○		○	
○			コンディショニングテクニックⅠ	一年間を通してストレッチの種類・使い分け・実践・指導ができるように知識と・技能を習得する。	1通	64	4				○	○		○	
○			コンディショニングテクニックⅡ	コンディショニングテクニックⅠで学んだことを活用しながら、スポーツマッサージとリンパマッサージを習得する。	2通	64	4				○	○		○	

（文化・教養専門課程 トレーナー専攻科）平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コンディショニングテクニックⅢ	コンディショニングテクニックⅠ・Ⅱで学んだことを活用しながら、身体のリラクゼーションテクニックの理解および実践しテクニックを習得する。	3通	50	3			○	○		○		
○			トレーニング実技Ⅰ	バーベル・ダンベル・ウェイトマシンなどを使い、ウェイトトレーニングの理論・実技を習得し、目的に応じたプログラムの作成。	1通	32	2			○	○		○		
○			トレーニング実技Ⅱ	様々なトレーニング法を学び、理解・実践した上で実習に活用していく。	2通	32	2			○	○		○		
○			トレーニング実技Ⅲ	フィジカルトレーニングについて理解・実践した上で実習に活用していく。	3通	25	2			○	○		○		
○			トレーニング特講Ⅰ	スポーツにおける現場体験から生じた課題の見つけ方、指導法などを学ぶ。	2通	32	2			○	○		○		
○			トレーニング特講Ⅱ	トレーニング特講Ⅰで学んだことを活用しつつ、現在所属する内部実習での課題についてディスカッション形式で進める。	3通	25	2			○	○		○		
○			機能評価	部位別に傷害の評価を行っていき、現場で必要とされる理論と実践をおこなう。	1通	32	2	○			○		○		
○			アスレティックリハビリテーション	アスレティックリハビリテーションの概念の理解とプログラムの理解をする。	2通	32	2	○			○		○		
○			運動処方	健康な一般人やリスクのある人たちへ対して、病気や怪我の予防とリハビリテーションの運動プログラム作成について理解し、適切な運動処方を実施する。	3通	25	2	○			○		○		
○			卒業研究	各自テーマを決め、その分野について探求し、プレゼンテーションをする。	3通	25	2	○			○		○		
○			アスレティックトレーナー概論	アスレティックトレーナーの果たすべき役割、業務を理解する。	1通	32	2	○			○		○		
○			実習ディスカッション	それぞれの現場実習における課題・評価について発表し、ディスカッションをおこない、その後の実習に活用する。	3通	25	2	○			○		○		

（文化・教養専門課程 トレーナー専攻科）平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ゼミ	卒業研究ともリンクさせながら各テーマにおいて研究し発表、ディスカッションを行う。	3通	25	2	○			○		○		
○			日本SAQ協会レベル1インストラクター講座	日本SAQ協会より講師を招聘し、レベル1インストラクターの資格取得を目指すとともに、学んだことを今後のトレーナー実習に活かす。	1通	64	4			○	○		○		○
○			スポーツ外傷・障害	スポーツ傷害について正しい理解を持ち、それらへの評価・処置を適切に実施できる。	1通	32	2	○			○		○		
○			現場実習	アルビレックス新潟下部組織のほか、JAPANサッカーカレッジ内部実習も含めトレーナー活動を行う。	1通～3通	1460	92			○	○				○
	○		企業体験実習（トレーナー実技）	アルビレックス新潟のほか、接骨院、整骨院、カイロプラクティックなどの様々な企業から選択し、体験実習（トレーナー実技）を行う。	1通～3通	2880	180			○		○	○		
合計			40科目			6048時間									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必須科目全ての授業単位を取得すること。各授業80%以上の出席率であること。	1学年の学期区分	前後期
	1学期の授業期間	16週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。